

グループホーム のぞみ
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ(1階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も家庭菜園は充実した内容と出来栄でした。入居者様と一緒に畑を耕し苗を植え一緒に野菜に収穫を行うのは毎日の日課となりました。毎年、収穫の最後は枝豆となっており、収穫にした枝豆は敬老会でごご家族の皆様にも食べて頂きました。今年の枝豆も実入りもよく、美味しく頂きました。のぞみでは、外出制限や面会制限は全て解除となり、面会時間に制限を設けずご家族様とゆっくり過ごして頂いています。また、個別支援も継続し行っており、出前を頼んだり、買い物に行かれたりされています。猫は4匹飼っており、アニマルセラピーの役目を果たしてくれています。歌が好きな方も多いので、室内ではカラオケの機械を利用しカラオケを楽しんだりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームのぞみ」は、五稜郭駅より1.5キロ、七重浜駅より1.2キロの静かな住宅街に位置し、近くには北海道大学水産学部やシニアベンションがある。歩いて行ける距離にコンビニエンスストアもあり、職員と一緒に買い物に出かけている。建物は2階建ての2ユニットのグループホームであり、同じ敷地内に並列で同法人のグループホームが2ユニットある。2棟の建物の間には畑が作られ、家庭菜園の得意な利用者と職員を中心に野菜を植え、収穫を楽しみ食材として活かしている。外国人(ネパール人)も介護助手として雇用し、職員の業務負担の軽減を担っている。運営推進会議は二つの事業所合同で行い、町内会、地域包括支援センター、薬局と多職種の参加があり活発な会議となっている。そこで表出された意見や要望をサービス向上につなげている。職員はノーマライゼーションを中心とした理念のもと、その中の一つ「個人の自由の尊重」を意識し、職員同士のコミュニケーションを取りながら日々より良い介護に取り組んでおり、アニマルセラピーも取り入れている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けている。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理念と合わせて職員が意識を統一ケアに望めるよう取り組んでいる。	理念が多く、なかなか職員への浸透は難しい状況だが機会がある度に理念の意識付けを行い一つでも遂行しようと管理者と職員が力を合わせて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類に移行後、外出の機会も増え、町会の夏まつりなどに参加し地域との交流を徐々に再開している。	町内会行事も復活し夏祭りには抽選会に参加し、たくさんの景品をもらったり、新年会ではカラオケを熱唱するなど交流は深まっている。町内の方から野菜の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナが5類に移行後、外出の機会も増えており、認知症の方々の理解を深めれるよう取り組んでいく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが5類に移行後、対面での開催を再開している。まだ出席者は限られているが、利用者様や家族に出席して頂けるよう取り組んでいく。	町内会、地域包括支援センター、薬局の参加もあり年6回開催している。会議の内容も事業全般にわたり、参加者の質疑応答も詳しく記載し大変分かり易い議事録である。今後は家族への議事録発送時に参加の案内をする方向でいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営推進会議の議事録などで市の担当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイスを頂きながら取り組んでいる。	市の担当者とは事故報告などメールでのやりとりが多くなっているが、その分連絡が密になっている。相談事は直接電話するなど常に連携を取りながら協力体制を整えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう定期的に勉強会を行っている。夜間は安全面を考慮し、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠をしている。	職員同士で言葉がけには気を付けるようにしている。ユニット管理者が確認の巡回を行い、身体拘束廃止委員会より事例を提出し、ユニット会議にて虐待に当たるかを話し合っている。会議の内容は、運営推進会議の議事録に掲載し各家族に送付している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束について話し合い、合わせて虐待にあたる行為はないか再確認し、運営推進会議の場でも報告行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コロナが5類に移行になり、権利擁護や成年後見制度に関する研修も再開され受講してる。1名後見人がついている方がいます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や支払いに来られた時などに、要望等聞いており、月に1度手紙を書き入居者様の様子を報告すると共に、受診報告等電話した時にご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。	家族から食事介助の申し出がある場合は家族にお願いしている。面会時や支払い時には時々個別支援の要望があり、それらの要望に対し速やかに対応している。来所が難しい家族には毎月のお便りの時に利用者の様子を伝え、電話にて意見・要望を聞いている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。	管理者は職員と常にコミュニケーションをとり、意見を表出しやすい環境作りに努めている。年に1度個人面談を行い、備品などの大きな物の購入希望については、社長も含む管理者会議にて話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを密に行い、悩みや相談事などを聞いている。内容によっては代表者が入る会議等で報告し解決にむけ取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ラインワークスを活用し、法人全体で研修に取り組んでいる。各分野の研修内容をみて職員の経験や力量等を踏まえ研修参加を促したり、本人の希望の研修に参加してもらっている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類に移行はしたものの、介護現場ではまだ感染防止対策は継続されており、同業者との対面での交流は多くはありません。しかし、研修会などが再開されてきているため今後同業者との交流する機会があれば他事業所の勉強会へも参加していきたい。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話を伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつの関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援で外出の機会も多くなってきており、本人の意向に沿った支援を行っている。(温泉、自宅へ)	利用者の希望により温泉に出かけ食事をし、ノンアルコールビールを飲んだり自宅に帰り家族と触れ合うなど個別支援の回数が多くなり、馴染みの関係が継続できるように支援している。感染症の流行も落ち着き来訪者も増えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さまで行える、レクリエーションや、家事作業、工作など、お互いに出来る事を行う事で支え合って生活しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は関係がと絶えてしまうことがほとんどです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるよう努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討しています。コロナが5類に移行後個別支援も再開しています。	日々のケアの中から本人の意向を把握し、喫煙希望者には職員と共に屋外にて喫煙し、行事の時はノンアルコール飲料も提供している。困難な場合は本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。	介護計画は半年に一度見直し、モニタリングを繰り返しながら担当者と計画作成している。本人や家族の希望により縫物、洗濯物たたみ、盛り付け、食器ふきなどの軽作業も取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物支援も少しずつ再開し、地域の夏まつりには3年降りに参加させていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科受診や、皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。	月1回の内科受診や皮膚科の往診がある。協力医からは月1回の訪問看護があり24時間体制となっている。通院には職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。また、病院の相談員と早期退院へ向け情報を共有し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心して充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。	終末期に向けては入居時に説明し同意を得ている。重度化した場合は、医師・家族と話し合い改めて契約書を交わしている。夜勤者に負担がかからないように事前の勉強会を行い、看取り介護計画を作成しチーム全体で支援している。看取り経験はあるが、感染症流行の影響により最近では入院が多くなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行っている。災害、水害等も年に1回行い、災害や火災時の緊急連絡体制を見直したり、マニュアルは日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。	年2回火災避難訓練を行い、自然災害訓練も1回行っている。訓練後、消防署の方から講評をもらい避難方法を再確認している。照明器具や備蓄も用意している。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援を行っています。	利用者の生活歴を把握し、自由に過ごせるように静かな環境を好む方は部屋のソファで休んだり、廊下のソファで横になるなど、思い思いに過ごせるよう見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるよう日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行っている。服もどちらが良いか等一緒に選んでもらっている		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。	大晦日には寿司・蕎麦・茶碗蒸し、正月には白玉での雑煮、お彼岸にはおはぎと季節に合った行事食を用意し、個人での外食など食事を楽しむ支援を行っている。昼食時には家族が来所し食事の介助を受けている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂くなどの支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。	排泄パターンを把握し利用者の様子を見ながら声がけをしトイレ誘導を行っている。夕食後に声がけをして夜間も自立が保たれている利用者が2名いる。トイレでの排泄に向け自尊心を傷つけないよう配慮しながら自立に向け支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。	週2回を基本に入浴介助を支援している。拒むときには日にちを変えたり、歌を歌ったりと色々工夫している。また、温泉希望の利用者には職員と共に出かけ入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の「与薬一覧表」を作成し、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援が再開できるようになり、自宅訪問や温泉など、ご本人の希望に沿った支援を行えるよう動めている。	春には公園へ花見、秋には八郎沼への紅葉狩り、近所への散歩や家庭菜園作りと外出が自由になり、個別支援と一緒に買い物、外食と本人の希望にそった支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関しては施設管理が殆どですが、ご家族から本人に渡す際は一言、「本人が持っています」等のお話を頂いています。受診の帰りや、出掛けた際に「何か買いたい物はありませんか？」など聞き買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から来る手紙などは、スタッフが一緒に読んで聞かせてあげたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるように配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。	居間にはクリスマスツリーを飾り季節感を感じられるように工夫し、行事での笑顔いっぱいの写真や、年頭での心意気を記入した色紙や作品が展示されている。廊下にはソファが置かれゆったりと過ごせる配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はないが、ローカにソファを置くことで、リビングから少し離れた場所で過ごされる方も居ます。時々、事務所にて過ごされるかたもあり、そこで食事や自分の趣味を楽しむ事もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者やご家族と相談しながら、安心してお部屋を使用して頂くためにも、在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。	利用者は使い慣れた家具を持ち込み、過ごしやすいように工夫をしている。カレンダーや写真を飾り、好みの部屋作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	O171401151		
法人名	有限会社 ウジャト		
事業所名	グループホーム のぞみ(2階)		
所在地	北海道函館市亀田港町60番28号		
自己評価作成日	令和6年11月10日	評価結果市町村受理日	令和6年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401151-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナでの窮屈な生活から解放され、今年は外出支援をたくさん行うことができました。その中で個別支援では、自宅へお連れ下際にはご家族がとても喜んで下さる場面もあり、車いすを抱えたりと大変なこともありましたが訪問できて良かったと職員もとてもやりがいを感じていました。この他にも、お花見や買い物、紅葉ドライブ、外食などの外出支援を行うことができました。日常の中では、皆さんで工作を行い、季節の飾りを作ったり、数名の方にはなりますが、調理の手伝いなど行って頂いています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関の入り口やリビングに掲示し、個々で確認しながら実現に向けて取り組むよう心掛けてい る。又、毎月ユニット理念(目標)を掲げ、事業所理 念と合わせて職員が意識を統一しケアに望めるよ う取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよ う、事業所自体が地域の一員として日常的に交流し ている	外出なども通常通りに戻り、外出の機会も増え、町 会の新年会や夏まつりなどに参加し地域との交流 を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人 の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活か している	外出なども通常に戻り、外出の機会も増えており、 認知症の方々の理解を深めれるよう取り組んでい く。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価 への取り組み状況等について報告や話し合いを行 い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	対面での開催も再開し、町会、薬局、包括などに 出席頂いております。まだ利用者様や家族に出席頂 けていないので出席して頂けるよう働きかけて行 きたいと思います。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や運営推進会議の議事録などで市の担 当者に事業所の取り組みなどを報告し、アドバイ スを頂きながら取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの禁止行為を正しく理解できるよう 毎月勉強会を行っている。夜間は安全面を考慮し 、ご家族からの了承を得て、夜8時以降は施錠を している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学 ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待 が見逃ごされることがないように注意を払い、防 止に努めている	毎月行なわれているユニット会議で身体拘束につ いて話し合い、合わせて虐待にあたる行為はない か再確認し、運営推進会議の場でも報告行っ ている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人の手続きの機会が以前より多くなっています。今年も研修に参加する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、ご本人や家族にホーム内を見学して頂き理解、納得をして頂けるよう説明をし、契約時には利用料、医療連携体制、入居にあたっての留意事項など、契約書や重要事項説明書に基づき説明を行なっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族に面会時や支払いに来られた時などに、要望等聞いており、月に1度手紙を書き入居者様の様子を報告すると共に、受診報告等電話した時にご家族の要望や意見を話して頂けるような機会をつくり、頂いた意見などはその後ユニット会議などの議題として上げ、改善すべき点があれば速やかに対応できるよう体制をとっている。又、玄関フロア入り口には意見箱を設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常やユニット会議で意見や提案を聞き、施設長や社長も出席する管理者会議にて提案している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日常的に職員とのコミュニケーションを密に行い、悩みや相談事などを聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ラインワークスを活用し、法人全体で研修に取り組んでいる。各分野の研修内容をみて職員の経験や力量等を踏まえ研修参加を促したり、本人の希望の研修に参加してもらっている。また、ユニット会議でその時の状況に合わせた勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナが5類に移行はしたものの、介護現場ではまだ感染防止対策は継続されており、同業者との対面での交流は多くはありません。しかし、研修会などが再開されてきているため今後同業者との交流する機会があれば他事業所の勉強会へも参加していきたい。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談を行い本人やご家族に直接会って話を聞かせてもらい、施設の概要などを説明し、どのように暮らしたいかを伺い要望などには応えられる範囲を説明し、不安な事や疑問点については納得できるまで説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際に、アセスメントと一緒に、ご家族の要望や心配事を聞かせてもらい、一緒に考えていく事で信頼関係を築く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約を頂く時点で、お話を伺い、緊急性等の見極めや、待機期間に、どのようなサービスを活用しているか説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの中で、一緒に家事作業等を行い、ご本人が出来る事は積極的に行えるような関わりをし、得意な事などは教えて頂いたり、持ちつ持たれつの関係を築けるよう努力している。又、何かをして頂いた時には、感謝の言葉を忘れずに伝えるよう心掛けています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、毎月のお手紙で近況報告行い、何かあった時は、都度電話連絡をし、問題があれば、ご家族と一緒に考えていける体制を取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援で外出の機会も多くなってきており、本人の意向に沿った支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さままで行える、レクリエーションや、家事作業、工作など、お互いに出来る事を行う事で支え合って生活しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は関係がと絶えてしまうことがほとんどです。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを取り、本人の意向を把握できるよう努めています。ご家族からの情報も含め職員間で検討し個別支援につなげています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際、ご家族への聞き取りや、本人からの昔話を通して情報の把握に努め馴染みの暮らし方を継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様の状態観察をし、アセスメントを行い、自立への支援に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者及び職員は、入居者様が、日々より良い暮らしをして頂く為に、ご本人やご家族の希望収集に努めています。又、主治医からの指示等も反映した計画ができるよう、月末に行うユニット会議で職員全体で話し合いを行いながら作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、介護計画に活かす事ができるよう、各職員が、連絡ノートに具体的な内容を記入し共有しています。又、会議等では、それらをもとに検討し、介護計画に活かせるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の団欒やコミュニケーションの中から、入居者様の希望を聞き出すと共に、ご家族との連絡も密に行い、どうすれば対応できるかを職員間で検討し実行に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、外食支援も少しずつ再開し、地域の夏まつりや町会の新年会にも参加させていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医を確認し、協力医療機関等の説明(月1回の内科受診や、皮膚科往診)を行っています。又、利用契約前のかかりつけ医を希望の場合は継続受診ができるよう支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回、協力病院から看護師が訪問し血圧測定、採血などの健康管理を行っており、その際に入居者様の状態等を伝えアドバイスや受診の指示などを頂いている。又、入居者様の状態に応じた医療機関への受診の支援も行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が決まった際には職員が生活、身体、精神状況を病院側に伝えている。また、病院の相談員と早期退院へ向け情報を共有し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「グループホームのぞみ 看取り介護に関する方針」を作成し入居時に説明を行っており、入居時点での御家族の考えなどを聞かせていただいています。又、実際の終末期を迎えられた方への支援として、御家族へ再度看取り介護に関しての説明と同意をいただき、「看取り介護計画」を作成しチーム全体で最後まで安心し充実した日々を送っていただけるよう支援させていただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し全職員への周知を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練を行っている。災害、水害等も年に1回行い、災害や火災時の緊急連絡体制を見直したり、マニュアルは日頃からそれらを意識できるよう事務所、リビングと目につくところへ掲示している。地域との協力体制はなかなかうまくいっていないのが現状です。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者様ひとりひとりのこれまでの生活や思いを尊重し、常に私達の人生の先輩であるという思いを忘れずに日々支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者ひとりひとりの心身の状態、想いの把握に努め、やりたい事、希望を話せるよう環境作りを心掛けている。又、訴える事が困難な方には日々の関わりの中から想いを汲み取れるよう努力し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースを把握できるよう日々の関わりを大切にしている。また、入所前の生活スタイル、自宅での生活の様子をご家族に伺い、その人にあった生活ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容などの対応を行っている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	医療面で食事制限のある方には、本人に説明を行い、納得していただけるよう努めている。また、入居者の出来る事を考慮しながら一緒に食事準備や調理を行い、利用者・スタッフが一緒に食卓を囲み、楽しく食事をしていただけるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や間食、一日の水分量の把握に努めている。食事内容に関しては献立係りを配置し、栄養のバランスや季節の物を取り入れ日々のメニューを作成している。また入居者一人ひとりの希望を聞き取り、献立に取り入れている。食事、水分量の減少や体重の増減が見られる際は、御家族や医師に相談しながら入居者の状態に合わせ、おかゆ、刻み、ミキサー食等の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行い、定期的な義歯の洗浄にて清潔保持に努めている。また口腔内の異変時には歯科往診に来て頂き、年に1度歯科医が来て、全員の口腔内のチェックを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表等を作成し個々の排泄状態の把握を行っている。状態に合わせた誘導や、時間帯での声掛けを行い、トイレにて気持ちよく排泄していただけるよう介護計画を作成している。また、失敗時には本人の自尊心を傷つける事のないよう考慮しながら清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便確認、毎日の体操、個人に合わせて牛乳や野菜、果物、食物繊維の食べ物等排便を促しやすい飲食物を摂っていただいている。又、便秘がひどい方にはかかりつけ医へ相談し便秘薬などの対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後が入浴の時間になっているが、入浴日については利用者様の希望なども確認し、心地よく入浴して頂けるように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人や家族から生活習慣(就寝、起床時間や昼寝)を教えて頂き、個々の睡眠時間は職員全体で把握し、不眠の場合はその状況に応じて話を傾聴し安眠できるような促しを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の与薬表のファイル作成し、効能、副作用などの把握に努めている。服薬の際にはスタッフ同士が声を掛け合い誤薬のないよう都度確認を行っている。また、薬の管理も利用者様の手が及ばない場所へ保管し、内服薬の、紛失、誤薬がないよう努めている。		

グループホーム のぞみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から、それぞれ得意なこと・出来そうなことを観察し、個々の状態に合わせた家事作業やレクリエーションを行って頂いている。また、年間行事予定を作成し季節に応じた行事を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別支援が再開できるようになり、自宅訪問や温泉など、ご本人の希望に沿った支援を行えるよう勤めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いに関しては施設管理が殆どですが、ご家族から本人に渡す際は一言、「本人が持っています」等のお話を頂いています。受診の帰りや、出掛けた際に「何か買いたい物がありますか？」など聞き買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から来る手紙などは、スタッフが一緒に読んで聞かせてあげたりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量や光の入り方、空調での室温管理など利用者の意見を取り入れ自由に調節できるよう配慮している。また、家庭菜園の水やりや草取り、収穫を一緒に行ったり、リビングの設えに季節を感じて頂けるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの構造上、一人になれる空間はないが、ローカにソファを置くことで、リビングから少し離れた場所で過ごされる方も居ます。時々、事務所にて過ごされるかたもあり、そこで食事や自分の趣味を楽しむ事もあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用していた家具や写真などを持ってきて頂き、居心地の良い空間をつくれるように工夫して取り組んでいる。また、入居後は本人の希望を取り入れながら、お花を飾ったり、ご家族の写真を飾ったりなど、個々の好みに対応させて頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の生活空間の随所に手すりを設置し、浴室内の床は滑りにくい材質の物を使用したり、階段にも滑り止めを設置している。各居室の前に表札などの目印を設置したり、トイレの前には表示を大きく、見やすくするよう自立支援にむけた工夫をしている。		